令和７年６月７日（土）
13 時 30 分～15 時 30 分
ふらっと仏生山２階研修会

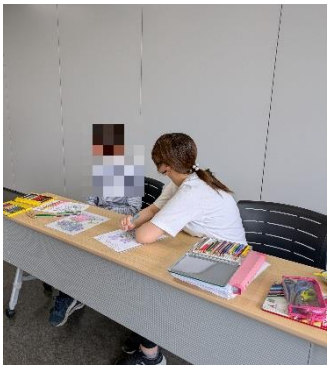
若年性認知症の人と家族の交流カフェ

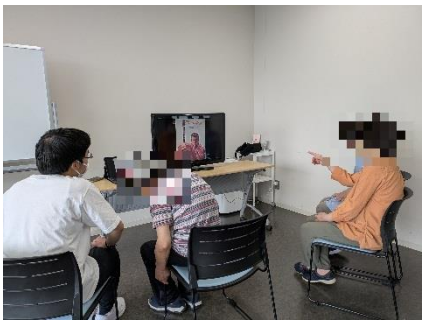
参加者
本人　３名
家族　７名
関係機関支援者　12 名　　計 22 名参加

I.プログラム

1）自己紹介と近況報告
参加者で自己紹介と近況について話しました

2）本人活動
スタッフと一緒に塗り絵をしたり、歌番組を鑑賞して過ごしました。



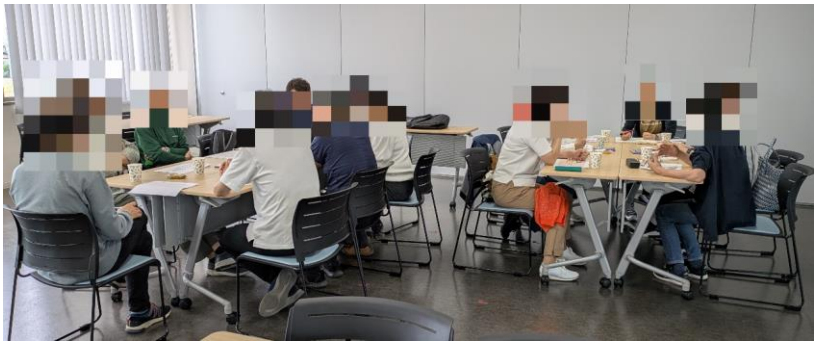


3）家族活動
2024 年１月１日に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」を情報提供し、「新しい認知症観」という新たな視点を紹介しました。そして、家族と支援者が一緒に、認知症基本法について感じたことなどを意見交換しました。

（意見交換した内容を一部紹介）
・古い認知症観も否定できないと感じる
・認知症の人への対応方法などをインターネットで情報収集してみるが、どれも書い

てあることは全て一緒である。個々の色々なパターンがあるはずなので、様々なパターンに対する情報が欲しい
・「制度」と「現実」は違う。当事者の立場になって分かる。今後、介護保険は役立つことがあると思うけど、他の制度や法律は、役に立つのだろうか
・認知症だからって特別なことじゃない。将来、身近な内科を受診して、認知症の診断ができて、治療が始められると良いと思う
・地域性もあると思う。あと、地域でどういうコミュニケーションや関係を築いてきたかで、認知症になってからの生活にも影響があると思う
・認知症のことを地域にオープンにした。共有でき、助け合えたこともあった
・私は認知症になったら、周囲には助けてもらいたいと思う
・理想的な法律だけれど、認知症になった人のことをもっと考えて欲しい。具体的な支援制度を充実させて欲しい。軽症者に対するサービスはまだまだ薄いと思う
・家族の声や意見も、もっと聞いて欲しい
・新しい認知症観の考え方に社会がなれると良いけれど、根付くのは難しいと思う

難しい話題でしたが、参加されたご家族から、認知症基本法に掲げるような地域社会になって欲しいと思う一方、介護家族という当事者だからこそ感じる制度の課題など様々な意見を出してくれました。とても有意義な意見交換となりました。



Ⅱ.閉会